

エコアクション21
環境経営レポート2018

(対象期間 40期 2017年9月～2018年8月)
2018年9月30日作成



伸光写真サービス株式会社

Biei Hokkaido, July 2018

目 次

1.	会社概要	2
2.	対象範囲（認証・登録範囲）	3
3.	環境経営方針	4
4.	環境経営目標（今期40期及び中長期目標）	5
5.	環境経営計画（今期 40期）	6
6.	環境経営目標の実績値・取組結果とその評価（今期 40期）	8
7.	環境経営計画（次期 41期の取組内容）	10
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果・違反、訴訟等の有無	11
9.	代表者による全体評価と見直しの結果	11



当社のSDGsとのつながり



材料等資源の有効利用



土壌汚染から地域を守る



水の利用効率を大幅に改善しきれいな排水に



気候変動対策(CO2削減)



さらなる電子化の促進



海洋汚染の防止

当社は電子業界の最先端技術を積極的に取入れ、人類・社会の進歩発展に貢献し全従業員の幸福を追求します。
当社は様々な分野のプリント配線板の試作品を製作しています。
私たちの製作しているプリント配線板は世界の人々を結びつけ、宇宙開発にも貢献しています。

持続可能な地球・世界にするために、私たちに何ができるでしょうか！

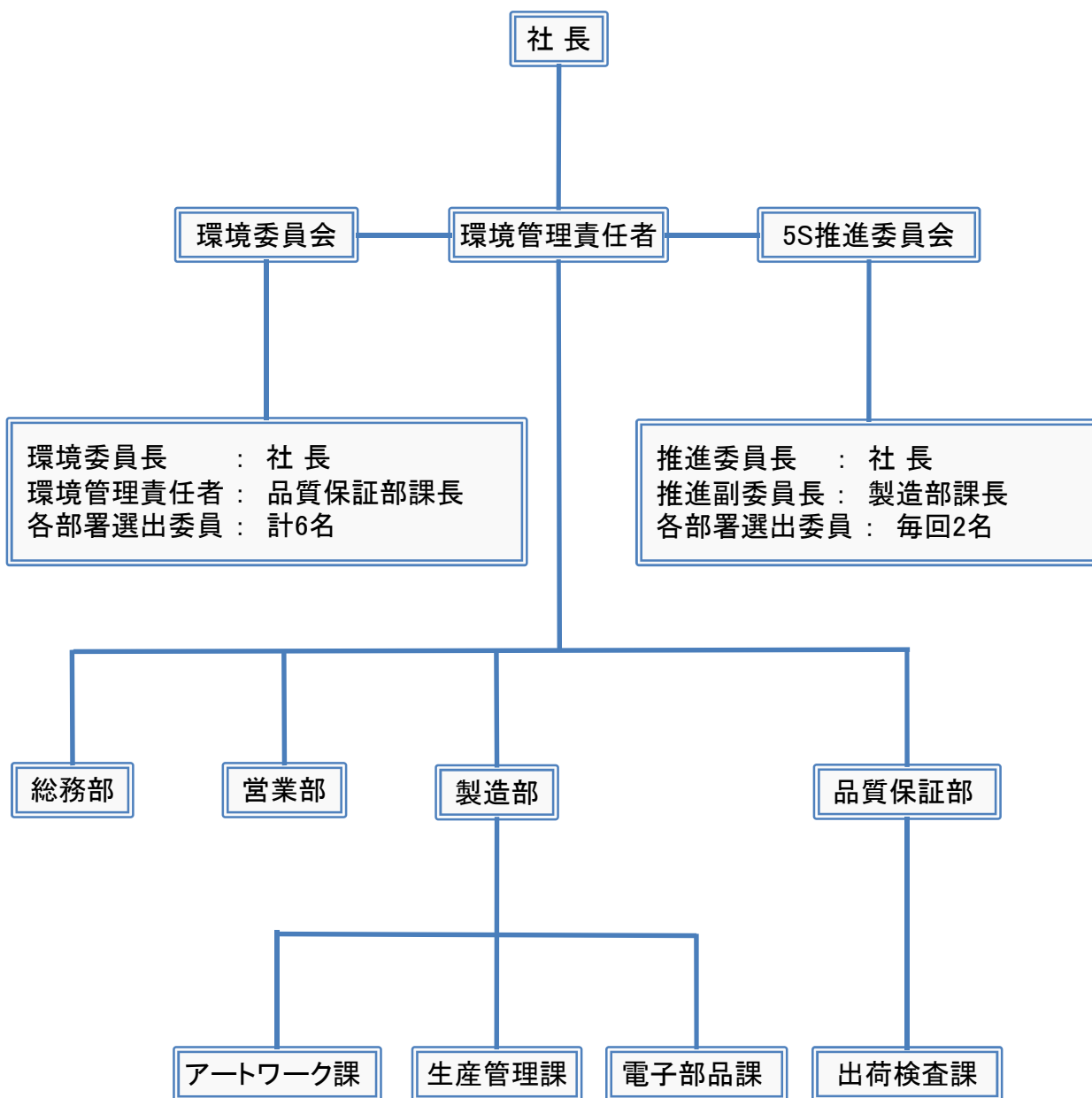
1. 会社概要

所在地	〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18
設 立	昭和 52 年 7 月 1 日
代表者	代表取締役 今井 俊夫
資本金	3,450万円
環境管理責任者	中島 光洋
連絡先	〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18 TEL : 045(933)8311 FAX : 045(933)8318
事業内容	プリント配線板・メタルエッチング及び 工業用精密マスクの製造
事業の規模	主要製品の生産量 / 出荷額 2.4t / 406百万円 従業員総数 32名 床 面 積 660m ²

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

全社(本社)環境管理組織(実施体制)

2018年9月1日現在



有資格者

特別管理産業廃棄物管理責任者 1名
A種除害施設等管理責任者資格 3名

3. 環境経営方針

伸光写真サービス株式会社は住宅地域に密着した企業として、身近な周辺環境保全と資源の節減・回収・リサイクル問題に積極的に取り組み、環境に配慮した事業活動を推進し“かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐ”事を目指し次の環境活動を展開します。

- ① 事業活動より発生する各種廃棄物、化学物質の管理を徹底し法令を遵守すると共に、化学物質及び各種廃棄物の削減・回収・リサイクルに努めます。
- ② 水質汚染・大気汚染の予防及び騒音問題についても法令を遵守すると共に、地域周辺への配慮を優先した事業活動を行います。
- ③ 消費電力・ガソリン・コピー用紙・上水道等の使用量削減を中心とした省エネルギー・省資源活動を行い、CO2の削減に努めると共にグリーン調達を推進します。
- ④ 環境に配慮した製品・サービス・生産活動及び製品品質の向上を通し、顧客や社会に貢献します。
- ⑤ 周辺住民との積極的な対話を持ち、環境保全についての地域行事に進んで参加します。

以上のことを実施するため、環境に関する目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進する。
この環境経営方針は、全社員に周知させると共に、外部の利害関係者が入手可能にする。

制定日2005年06月20日
改定日2016年06月08日
伸光写真サービス株式会社
代表取締役 今井 俊夫

4. 環境経営目標(今期40期及び中長期目標)

環境経営目的	環境経営目標/年	3カ年計画			
		38期(2016年) 実績	39期(2017年) 実績	40期(2018年) 実績 今期	41期(2019年) 目標 次期
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量 (Kw)	118,683	131,581 目標117,496 (38期比-1%)	135,646 目標130,265 (39期比-1%)	135,646 (40期実績を 維持)
	ガソリン使用量 (L)	2,893	2,471 目標2,864 (38期比-1%)	2,550 目標2,446 (39期比-1%)	2,525 (40期比-1%)
	二酸化炭素排出量 (Kg)	62,264	67,343 目標61,641 (38期比-1%)	67,369 目標61,019 (38期比-2%)	67,369 (40期実績を 維持)
資源のリサイクル(3Rの推 進、廃棄物等 の削減)	一般廃棄物 (Kg)	180	245 目標245 (過去3年平均 の-1%)	242 目標242 (39期比-1%)	240 (40期比-1%)
	産業廃棄物 (Kg)	29,061	26,960 目標28,770 (38期比-1%)	32,685 目標26,690 (39期比-1%)	32,358 (40期比-1%)
省資源の推進	水使用量 (m ³)	1,286	1,300 目標1,272 (38期比-1%)	1,373 目標1,284 (39期比-1%)	1,359 (40期比-1%)
	コピー用紙使用量 (枚)	50,500	44,500 目標49,995 38期比(-1%)	54,500 目標44,055 (39期比-1%)	53,995 (40期比-1%)
環境汚染の 防止	グリーン購入の推進 (数)	5品目購入	5品目購入 (目標 5品目)	5品目購入 (目標 5品目)	設定なし
	化学物質の使用量・ 排出量の削減 (フィルム削減率 : 描画率%) ※廃酸・廃アルカリ削減	74.0	71.5 目標73.0 (38期比-1%)	72.0 目標73.0 (38期比-1%)	73.0 (38期比-1%)
生産活動で の環境負荷 の低減1	不良件数の 低減(件)	98	95	133 目標48 (39期比-50%)	ポカミス件数 33件 (40期比-50%) 40期実績66 件 ※41期はポカミ ス低減に変更
	※39期以前は 損失額の低減(%)	2.03% (目標1.27%)	2.61% (目標1.74%)	2.15% (目標設定なし)	
地域社会と の協調・連携	環境ボランティア 活動の実施(回)	達成 (目標 年1回 実施)	達成 (目標 年1回 実施)	達成 (目標 年1回 実施)	目標年1回実 施
生産活動で の環境負荷 の低減2 ※基板材料節減	不適合情報等伝達/ 対策実施(件) (コミュニケーション の活性化)	達成 (不適合情報伝 達各部門5件/ 月)	達成 (不適合情報伝 達各部門5件/ 月)	達成 (不適合情報伝 達 各部門伝達5件/ 月、対策の実施1 件/月)	不適合情報伝達 各部門伝達5件/ 月、対策の実施1 件/月

5. 環境経営計画(今期 40期)

環境経営目標	今期取組内容
電力使用量の削減 (Kw)	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001の認証を取得しより具体的な社内改善を通し製品品質の向上を図る ・電力監視システムのデータによりポイントを把握しかつ電力のピークデマンドを抑える(省エネ法改正…努力義務) ・エアコンのフィルター清掃を強化する
ガソリン使用量の削減 (L)	毎月のガソリン使用量の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・燃費のよい車種を優先して使用する ・発進時、急加速しないようにする
二酸化炭素排出量の削減(Kg)	大きな影響を及ぼす、材料と電気量に注力して削減する
一般廃棄物の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・外注業者から入る合紙やビニールで不要なものは断る・返却する ・ごみの分別を再認識する(分別表作成) ・古紙はリサイクル業者に移管 ・ビニール袋の分別、再利用
産業廃棄物の削減 (Kg)	フィルム描画率アップによる現像液・定着液、フィルムの削減、 <ul style="list-style-type: none"> ・金属類の分別回収リサイクル
上水道使用量の削減 (m ³)	引き続き以下の項目を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理 ・使用量の把握を一ヶ月毎に監視
コピー用紙使用量の削減 (枚)	マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用(社内データのソフト化の推進) <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネットの有効利用を促進 ・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施
グリーン購入の推進 (数)	設備類に注力し、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する(グリーンラベルを含む)
化学物質排出量の削減 (%)	描画フィルム利用率を低減し、フィルム自体の削減及び間接的に廃酸・廃アルカリの排出量を削減する
不良件数の低減 (%)	前期データより不良件数の多い順に対策をおこなう <ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001: 2015の認証を取得し仕事のやり方の品質向上を図る ・外部供給者の評価基準を明確にし、評価すると共にポカミスが少ない業者を選定する ・要注意基板の製造においては関係者に事前に要点をアナウンスする
不適合情報等伝達/対策実施(件/月) (コミュニケーションの活性化)	仕事の業績又は結果を著しく向上させる活動としてコミュニケーションが挙げられる <ul style="list-style-type: none"> ・今期もコミュニケーションを意識して会社全体の品質向上を図る ・ISO9001の認証取得にともない、環境委員会において基礎的事項の補完をおこなう
環境ボランティア活動の実施	引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていく また地域行事に協賛企業として参加する

2017年11月 鶴見川・会社周辺清掃のときの写真です



6. 環境経営目標の実績値・取組結果とその評価(今期 40期)

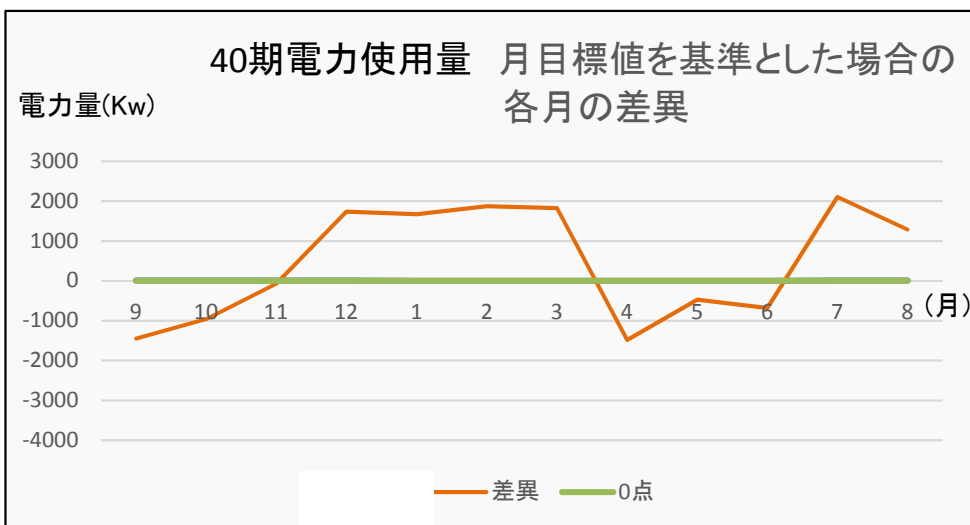
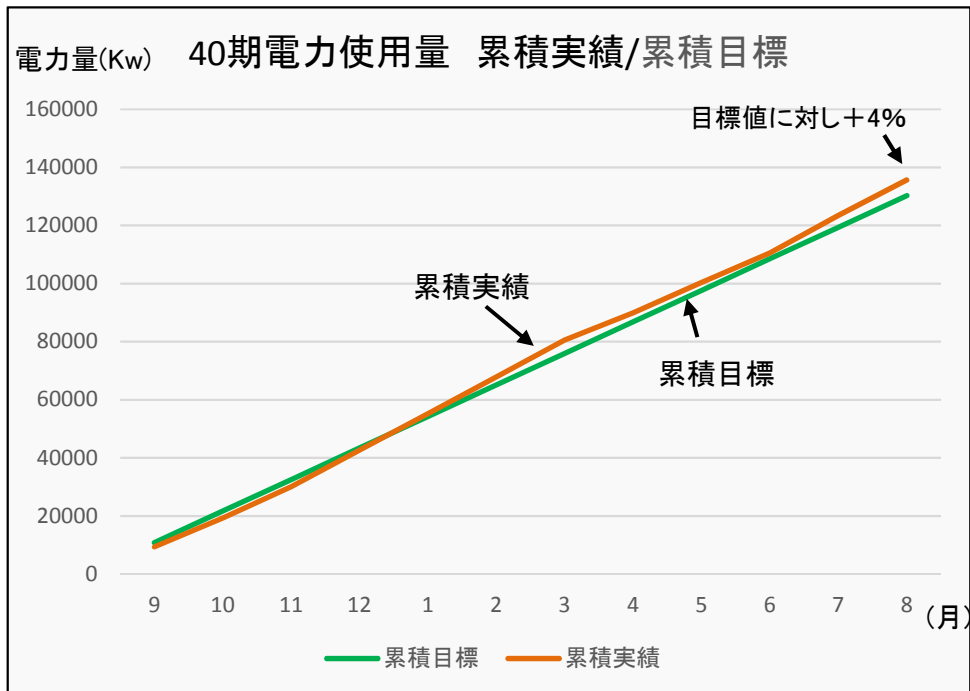
購入電力の排出係数: 0.449 (kg-CO2/kwh)

分類	環境経営目標	40期 目標値	40期 実績値	取組結果 (+が未達)	評価
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量の削減 (Kw)	130265 (39期比-1%)	135,646	39期比+4.1%	× 注1)
	ガソリン使用量の 削減(L)	2,446 (39期比-1%)	2,550	+4.3%	× 注1)
	二酸化炭素排出量の 削減(Kg)	61,019 (38期比-2%) (38期実績62,264)	67,369 (38期比+8.2%) (39期比+0.04%)	+8.2%	× 注1)
資源のリサイ クル(3Rの推 進、廃棄物等 の削減)	一般廃棄物の削減 (Kg)	242 (39期比-1%)	242	+0%	○
	産業廃棄物の削減 (Kg)	26,690 (39期比-1%)	32,685	+22.5%	× 注1)
省資源の 推進	上水道使用量の削減 (m ³)	1,287 (39期比-1%)	1,373	+6.7%	× 注1)
	コピー用紙使用量の 削減(枚)	44,055 (39期比-1%)	54,500	+23.7%	× 注2)
環境汚染の 防止	グリーン購入の推進 (数)※主要設備	5品目購入	5品目購入	目標数を 購入済み	○
	化学物質 排出量の削減 (描画フィルム 利用率(%))	73.0% (38期比0%)	72.0%	+1.4%	× 注1)
生産活動で の環境負荷 の低減1	不良件数 の低減(%)	39期比-50%(48件) (39期95件)	+177% (40期133件)	+177%	× 注2)
生産活動で の環境負荷 の低減2	不適合情報等伝達/ 対策実施(件/月) (コミュニケーション の活性化)	各部門 5件	各部門 5件	5件達成	○
地域社会と の協調・連携	環境ボランティア 活動の実施(回)	年1回実施	年1回実施	実施	○

- 注1) 基板生産枚数の増加により、水使用量など付帯する資源が増加しました。
また電力量の増加は、夏季のエアコン及び設備の待機電力によるものです。
CO2排出量も増加しました。(CO2排出量に最も関係する電気量を次ページのグラフに示します)
- 注2) 技術的に難易度が高くなってきており、また生産量も増加したことにより未達となりました。







今期40期の電力使用量の目標値と実績のグラフ






※ 当社のCO2排出量は90%が電力使用量依存のため、電力使用量のグラフを示す。



7. 環境経営計画(次期 41期の取組内容)



環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
電力使用量の削減 (Kw)	<p>目標値：売上目標を前期比10%アップとしたため前期実績を維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポカミス50%低減を通じ、再制作の回数を減らし、設備稼働による電気を削減する ・特に夏冬のエアコンの電気を削減する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 資源利用の効率低下 支出増加 ・機会 CO2削減により社会貢献 	<p>気候変動への対策</p> 
二酸化炭素排出量の削減 (Kg)	<p>目標値：売上も目標前期比10%アップのため前期実績を維持</p> <p>※本項目の電気の影響度は90%である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に電気量とガソリン使用量を削減しCO2削減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 自然災害発生により自社の操業が停止し、お客様へ製品を提供できない ・機会 CO2削減により社会貢献 	<p>気候変動への対策</p> 
ガソリン使用量の削減 (L)	<p>目標値：前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3台の電気自動車の活用を促進する <p>※本項目のCO2排出量への影響度は10%である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコモードに設定で運転する ・発進時、急加速しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク ガソリンペーパーが、PM2.5や光化学オキシダントとなり環境を破壊する 呼吸器系や循環器系などの疾患リスクを上昇させる ・機会 CO2削減により社会貢献 	<p>気候変動への対策</p> 
一般・産業廃棄物の削減 (Kg)	<p>目標値：前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄プラごみの影響を認識し、ビニール類の削減を努力義務とする。 ・総務課においてはビニールの過剰購入を抑制するため購入量チェックを厳格化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク マイクロプラスチックの有害物質吸着による生態系への影響 ・機会 安全な食材の維持 	<p>海洋汚染の防止</p> 
産業廃棄物の削減 (Kg)	<p>目標値：前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップしフィルム使用効率をアップする 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 基板材料の購入量増加により流通においてもCO2排出量が増加 廃材増加による利益率低下 ・機会 資源の有効利用 	<p>資源の有効利用</p> 
水使用量の削減 (m³)	<p>目標値：前期比1%削減する</p> <p>引き続き以下の項目を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理する ・使用量を一ヶ月毎に監視する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 大量の水排出により有害化学物質の流出が増加し生態系に影響 ・機会 生態系を維持 淡水の持続可能な供給を確保 	<p>水の利用効率の改善</p> 

環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
コピー用紙使用量の削減 (枚)	<p>目標値：前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用 ・ISO9001の促進を通じ、ドキュメントの電子化を促進する ・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 森林減少による土地劣化の加速、生物多様性の崩壊により地球環境が崩壊へ進む ・機会 陸域及び内陸淡水生態系の自然循環により生物多様性を回復し豊かな自然を取り戻す 	<p>森林再生の大幅増加</p> 
化学物質排出量の削減 (%)	<p>目標値：使用量を前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム作成時の溶液使用量を削減する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 規制化学物質管理の不順守で行政の管理が厳格化 操業停止 ・機会 行政の信頼向上 	<p>水・土壌汚染の防止</p> 
ヒューマンエラーの低減 (%)	<p>目標値：ヒューマンエラーを前期比50%低減すると同時に仕損率もモニタリングする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001の促進を通じ、仕事のルールを順守し不適合を低減する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク ヒューマンエラーによる再制作の増加で使用材料、電気量、水の使用量が増加し利益が減少 お客様納期の不順守 ・機会 納期順守、お客様の信頼向上、ポカヨケの認識向上 	<p>資源の有効利用</p> 
不適合情報等の迅速な伝達と対策 (件/月) (コミュニケーションの活性化)	<p>目標値：部門毎に重要情報伝達5件/月及び対策1件/月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部門間において、重要情報の迅速な伝達により不適合を低減し廃材を削減する ・各部門において、ISO9001 プロセスアプローチによるインプット、アウトプット情報の認識を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 全体的に仕事があまく回らない ・機会 活力のある組織風土の醸成(ソフト要素の改善) 	<p>資源の有効利用</p> 
環境ボランティア活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていく。 ・地域行事に協賛企業として参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク - ・機会 地域周辺住民への環境意識の向上 環境への貢献・PR 	<p>環境面の良好なつながりで環境影響を軽減</p> 

8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認・評価結果、違反・訴訟等の有無

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、違反はなく遵守されています。
また、関係当局より違反・訴訟等の指摘は創業以来ありません。
(主要関連法規のみ掲載します)

主な適用法規制	内 容	遵守状況
下水道法 水質汚濁防止法 土壌汚染対策法	公共下水道排水の定期分析異常なし(横浜市の監査問題なし) 銅、アンモニアの排出基準 特定有害物質の管理(ランプ・蛍光灯の水銀、トランス内PCB)	○
廃棄物処理法	指定回収業者契約書等再確認済み(横浜市の監査問題なし) (電子)マニフェストの管理	○
フロン排出抑制法	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化(設備点検済み)	○
PCB特措法	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進(処理完了)	○
横浜市条例	A除外施設問題なし 資格者保有	○
毒物及び 劇物取締法	「劇物」の場合は表示 保健衛生上の見地から必要な取締を行う	○
製品含有化学物質 管理(業界標準)	RoHS2/J-Moss、REACH SVHC(含高懸念物質) コンゴ民主共和国等産出の紛争鉱物	○
消防法	対象:危険物。消火器定期点検・期限監視 危険物安全対策、横浜市火災予防条例	○
労働安全衛生法	特定化学物質障害予防規則(特化則) ストレスチェック	○

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今期は、基板生産枚数が前期比+8%になったこと、及び冬季、夏季のエアコンの電気量増加により電気量が前期比+4.1%、CO2排出量が前期比+8%となりました。

とくに、エアコンや設備の平時の温度コントロールが要因と考えられます。

※当社のCO2排出量における電気量の依存度は約90%となっています。

※今期は売電業者を変更したことによりCO2排出係数がかなり落ちました。

この基板生産枚数の増加により、水使用量など付帯する資源の使用量も増加しました。

さらなる継続的改善として次の取り組みを行います。

持続可能性への新しい物差しSDGsが、国内外に広まっていますのでこれを考慮に入れ環境対策を推進します。

1. 基板材料削減を主とした資源の有効利用のために、KPI(指標)としてヒューマンエラーの低減率を設定します。また引き続き仕損率もモニタリングします。これにより基板の再製作を減らし電力使用量、水使用量も削減します。
2. 災害時の影響を低減するために、事業継続プランの運用を強化し、緊急時の内部・外部への影響を軽減します。
3. 「リスクと機会」の力量・認識の強化を通じ、法令・規制遵守の確実性を向上します。

引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていきます。また地域行事に協賛企業として参加します。

2018年9月30日
代表取締役

今折 俊夫